

第 2 回海南市立小中学校適正規模等審議会

議事の要旨

日 時	令和 3 年 11 月 16 日(火) 午後 7 時～午後 9 時 20 分																						
場 所	海南市役所 2 階 第 2 委員会室																						
委 員 の 出 席 状 況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>添田</td> <td>児嶋</td> <td>谷所</td> <td>熊代</td> <td>田上</td> <td>有木</td> <td>内藤</td> <td>坂本</td> <td>新田</td> <td>田中</td> <td>郡</td> </tr> <tr> <td>出席</td> <td>出席</td> <td>出席</td> <td>出席</td> <td>出席</td> <td>出席</td> <td>出席</td> <td>出席</td> <td>出席</td> <td>出席</td> <td>出席</td> </tr> </table>	添田	児嶋	谷所	熊代	田上	有木	内藤	坂本	新田	田中	郡	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席
添田	児嶋	谷所	熊代	田上	有木	内藤	坂本	新田	田中	郡													
出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席													
事 務 局 等 出 席 者	<p>○事務局 西原教育長、中野教育次長、藤岡教育委員会総務課長、日高学校教育課長、岡島教育委員会総務課課長補佐、福田学校教育課課長補佐、雨乞教育委員会総務課教育企画係長</p> <p>○教育委員（関係者） 露峯委員、川村委員、中山委員、嶋田委員</p>																						
議 題 等	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) アンケート調査結果について</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 海南市における小・中学校の適正な学校規模の基本的な考え方について</p> <p style="margin-left: 40px;">①中学校の適正な学校規模について</p> <p style="margin-left: 40px;">②中学校の学校規模の適正化について検討を始める基準について</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) その他</p> <p>3 その他</p> <p>※<u>議題の「(2) 海南市における小・中学校の適正な学校規模の基本的な考え方について」は、会議時間内に審議に入れなかったため次回の審議会に持ち越し</u></p>																						
審 議 経 過	<p>■議題（1）のうち小学校分について、事務局から説明後、質疑応答。</p> <p>■議題（1）のうち中学校分について、事務局から説明後、質疑応答。</p> <p>→会議の予定時間を超過したため、議題（2）「海南市における小・中学校の適正な学校規模の基本的な考え方について」の審議は、次回の審議会に持ち越すこととし、各委員は次回までに「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」の関連箇所を一読しておくこととする。</p> <p>■事務局から次回の開催日程について説明。</p>																						

※資料の修正点

資料	修正箇所	修正内容
資料 3 - 1 「学校の適正規模等に関するアンケート調査【集計表】」	40 頁	「中 1 でコロナ禍なので答えにくいです。」の項目を削除

■議題（1）アンケート調査結果について

（ア）小学校のアンケート調査結果

【委員】

児童・保護者・教職員の大半が望ましいと考えている規模の 3 条件を全て満たしている小学校は何校かあるのか。

【事務局】

中野上小学校が該当する。

【委員】

理想に近い小学校では、アンケートでも課題等は挙げられていないのか。

【事務局】

学校ごとに満足度等の分析はできていないが、理想に近い学校でも不満を感じている保護者はいる。全体を総合的に見て、多くの児童・保護者・教職員が望ましいと考えている規模という形で整理している。

【委員】

1 学年 1 学級の規模を望ましいと回答した保護者の中には、その理由等で「クラス替えができること」と回答した人が 80 名いるとのことなので、「1 学年 1 学級」にとらわれない方がよいのではないか。

【委員】

先生は転勤があるので様々な学校を見ることができると、子供や保護者は転校しない限り一つの学校しか分からない。アンケート結果を見ると、複数クラスがある学校では「もっと子供を見てほしい」、1 学級の学校は「クラス替えをしてほしい」という形で、ないものねだりになっている。ほかの学校のことを分からない中で回答しているので、このアンケート結果を見ただけでは分からないのではないか。

【会長】

「1 学年 1 学級が良いのか、クラス替えができた方が良いのか」ということについては、アンケートから読み取れないと思うが、子供も保護者も 30 人以下の規模を良いと感じていることがよく伝わってくる。

【委員】

質疑応答の内容等

私自身の小学校の頃の実感として、1学級30人以下の規模は、先生に自分のことを見てもらっていたという実感があり、16～30人程度というのは実情を踏まえた数字だと思う。また、当時は2学級あったため、友達関係で何か問題があってもクラス替えによって逃げ場があるという実感があった。アンケートの自由回答でも「クラス替えができることで、いじめや友達関係の問題などが解消できるのではないか」といった意見が多いことから、回答を誤った保護者が一部いたために「1学年1学級」という答えが導き出されてしまったのではないかと思う。また、全校児童数についても、「100～180人」でも「300人超」でもあまり変わりはなく、この違いが大きく出てくるのは学校施設面での不足の度合いではないかと思う。それぞれの規模について、「何をもって望ましいと感じているのか」という点が大事だと思う。

【会長】

小学校の適正規模については、次回の審議会での審議を考えているが、海南市の学校規模の現状を見ると、全学年で2学級ある学校は2校だけであることから、「1学年2学級を目指す」ということを言いきれない部分もある。次回の審議会では、そういった点について、どのような観点から考えていけばよいのかという点から考えていきたいと考えている。

【委員】

中学校と小学校を合わせて考えると、例えば下津第一中学校のように、一つの小学校からそのまま進学するような学校で1学年1学級の場合は、クラス替えができないデメリットが大きいのではないかと思う。

(イ) 中学校のアンケート調査結果

【会長】

教員が1学年3学級を望んでいることについて、本日、配布された中学校の教員配置数の資料で、各教科の教員数の欄が空欄になっているところは、その教科専任の先生がいないということを示している。教員数は学級数によって決まるため、学級数が少ないと教員数が少なくなり、全ての教科をカバーできなくなる。基本的に、9学級（1学年3学級）の規模になると、全ての教科に専任の教員を配置できるが、海南市の場合なかなか望めない状況であり、現在のところ1学年2学級で教員が14～15人という状況になっている。

【委員】

中学受験を受ける子供は何パーセント程度いるのか。

【事務局】

正確には把握できていないが、概ね1割近くの数字になる。

【会長】

下津小学校の児童数が 103 人、下津第一中学校の生徒数が 49 人で 1 学年 15 人程度だが、基本的に下津小学校の児童全員が下津第一中学校に進学しているということになるのか。

【事務局】

受験や部活動の関係で他の地区に行く場合も若干あるが、基本的には下津小学校から下津第一中学校に進学する。

【委員】

教育熱心な地区になるので、私立を受験する人も多いが、数年前までは様々な理由で下津第二中学校に通っている子が多かった。

【会長】

下津第一中学校について、保護者として何が課題と考えているか。

【委員】

学校の体育館が古いが、近隣の拝待体育館を利用できる。また、市民交流センターや下津小学校も近隣にあるので、教育する場としては良いと思っている。ただ、部活動については、団体競技の部活動しかなく人数不足でチームが組めないため、外部に行っている状況である。アンケートでも、人数が多い学校はグラウンドや施設面が不十分なために部活動が充実できず、人数が少ない学校は人数面で部活動ができないといったように、学習面よりも部活動についての課題を書かれている人が多いと感じた。

【委員】

クラス替えについては、保護者や生徒が非常に意識する点だと思う。1 学級のみ学年がある学校は 3 校あり、その中で、東海南中学校は 3 つの小学校から、下津第二中学校は 2 つの小学校から進学してくるが、下津第一中学校については、1 つの小学校から 1 学級のまま進学してくるという状態で、ほかの学校とは異なる悩みを持っていると感じた。

【委員】

部活動については、運動部が重視され、なくなっていくのも文化部からという形が多いが、運動部だけに偏らない議論ができればと思う。

【委員】

下津第一中学校の保護者は、このままでよいと考えているのか。

【委員】

保護者の中には卒業生も多く、存続させたいという意見もあるが、人数が少ないことによって保護者の負担も大きくなっており、私の周囲は「早急に下津第二中学校と一緒になればよい」と思っている。ただ、アンケートでも施設面

の不満が多く挙げられており、「統合する前にやるべきことがあるのではないか」といった意見も聞いている。

【会長】

確かに自由意見では、施設面、特にトイレについての意見が非常に多い。和歌山市でも、保護者アンケートでは「家のようにきれいな洋式トイレでないため使いたがらない」といった意見が多く、ある程度の年数が経過した学校では同様の問題を抱えていると思われる。

【委員】

トイレメーカーに勤める知人から「小中学校のトイレを洋式化するための予算があり、全国的に学校のトイレを洋式化している」という話を聞いていたので、自由意見を見て「そんなにトイレが汚い状態になっているのか」と感じた。また、自由意見について、学校別に分類されていないため、全ての小中学校のトイレが汚いというように感じるが、それぞれの意見について、どの学校の意見か分かるようにすることはできないのか。

【事務局】

保護者の意見について、学校ごとに分類することは可能である。

【委員】

バリアフリー化についても、法改正により、学校をバリアフリー化することが求められており、トイレについても車いすでも入れる多目的トイレを設置しなければならず、一定の年数で段階的に行うことになっていると思う。

【事務局】

バリアフリー化については、既存の学校は建替えの際に行うこととなっている。また、洋式化については、令和2年度に各トイレに洋式便器を1基、各学校に多目的トイレを1基設置した。トイレが汚い点については、汚いわけではなく臭いが問題となっており、根本的に改善するためには浄化槽を直す必要があるが、多額の費用がかかるため現時点では打つ手がない現状である。

【委員】

北野上小学校は少し前に全てのトイレが洋式になった。それ以前は、洋式トイレが1つあったが、子供たちの使用は禁止されていたようである。和式トイレの頃は、放課後に家に遊びに来た子供たちが必ず大便をして帰っていたが、洋式トイレになった後はそういったことはなくなり、学校トイレの洋式化は、子供たちにとって影響が大きいということを実感した。

【委員】

校舎を新增築する際にはバリアフリー化や洋式トイレの増設が可能となるため、適正配置を検討する上では、校舎の新築も含めて「どのような形で統合すればよいか」といったことを前向きに検討することが重要である。私たちが

しっかりと審議することで、子供たちの教育にとって良い方向に持っていきたいと考えている。

【会長】

今後、統廃合を検討する必要がある際には、施設面での充実について配慮する必要があるということを審議会として行政に伝えることも可能である。

【委員】

結局、トイレの改善については予算がなくてできないということではどうか。

【事務局】

令和2年度に工事が完了しているため、現在は予算措置されていない。今後、学校の長寿命化改修に取り組む際にトイレも一緒に改修していく計画を持っている。

【委員】

トイレについては、衛生面で抵抗があるため、和式トイレも必要と考える。

【委員】

学校が多い中で予算的に難しいということは分かっているが、一市民から見ると、海南 nobinos も学校も同じ財布から出ていると思っており、どんどん新しい施設や道路を作っているが、なぜ学校に配分できないのかと思っている。学校の老朽化に対する対策をせずに統廃合するという話では誰も賛成しない。今の子供たちは、統廃合してもすぐに新しい学校に行けるわけではないので、今、拳がっている問題については、何とか予算を組んで対応してあげていただきたい。

【会長】

下津第一中学校は1小学校・1中学校で人数も少なく、9年間で15～16人で過ごしていく状況についての意見があったが、保護者としてどのように考えているか。

【委員】

市町村合併前に下津小学校と下津第一中学校は小中一貫教育のモデル校として取り組んでいたが、学級崩壊するなど失敗した学校が多い中、下津小学校と下津第一中学校は成功した稀なケースであるという話を聞いた。そういう点にも配慮して下津第一中学校を残していたのではないかと考えている。

【会長】

小中一貫や小中連携など様々な方法があるが、ほとんどの学校が1学年1学級になってきており、小中一貫で9年間の教育課程を考える取組は多くのところで行われている。ただ、規模が大きいとうまくいかないというのは事実で、例えば、1学年3学級の規模になると9学年で27学級となり、27学級の

カリキュラムを組むのが大変になる。そういう意味では、小規模な学校の方がやりやすいのは事実だが、小さければできるというわけではなく、下津がうまくいったのは、ある程度の規模で教職員の人数もあり、非常に良い環境が整っていたのではないかと考える。

【委員】

人数を見ても下津第一中学校と下津第二中学校が1つになる方が良いと思うが、校区が広がるため学校の位置が問題になる。また、地域に学校がなくなると人が住まなくなるといった懸念を持っている。「子供が減るから学校を統合する」という話になっているが、人を増やそうとする努力がないように感じる。教育をしっかりとできる地域を作った方が人も集まり税収も増える。また、今回のアンケートを見て、亀川の校舎を増築したことを知ったが、教育委員会は出生届から将来の子供の数を把握していないのか。

【事務局】

把握している。

【委員】

把握していながらそういう状況になっているのか。区画整理をして住宅が増えれば子供が増えると分かるので、事前に何か準備できるのではないか。

【事務局】

区画整理をしても、同じ地区内の人の家を建てるケースが多く、地区外からの流入がないのであまり人が増えない場合もある。

【委員】

それでも若い世代が家を建てれば子供の数が増えると思われるが、その点は気にしていないということか。

【事務局】

子供の人数については、現在の0歳児までは把握できており、それを見ると市全体では減少する。地域別に見ると減少の割合は異なり、亀川・巽では現状維持か少し減る程度である。また、0歳児の人数までは把握できるが、私立や県立学校に行く人もいるので、そこから更に少なくなる。そういったことも含めて、審議会では、「どの程度の人数を一つの基準と考えるか」といった点について審議いただきたいと考えている。

【委員】

引越しや新築等については気にせずに学校の再編について考えてもらいたいということか。

【事務局】

土地開発により団地ができる場合などは今後人数が増えると想定できるが、それ以外の地区で、現在は畑だが今後家が建つ可能性があるという場合は想定できない状況である。

【事務局】

市として何もしていないわけではなく、道の駅を整備するなど、下津地域全域の活性化に取り組んでいる。

【委員】

一市民から見ると何もしていないように見える。海南市の中で旧下津町地域だけが過疎地域に認定された。その上で学校を減らしていくと「そこに住まなくてよい」と行政が太鼓判を押しているように感じる。中学校の統合についても、人数的に統合しないと子供たちがかわいそうということは分かっているが、教育面も含めて住みよい町にしていきたい。マイナス面の話だけでなく、統合することによって更に良くなるといった部分を示していきたい。

【会長】

統合する際には、より良くするための検討委員会という形で、新しい学校になるからこそできる特色のある学校づくりについて議論し、それに対する支援を行政に求めればよいと思う。「学校がなくなって終わり」という統合については、私は賛成しない。学校がなくなったとしても地域との繋がりをどのように保っていくのかということも含めて計画すべきで、切り捨て的な統合では地域は立ち行かなくなると考えている。私は、今回の委員を引き受ける際に、「人数が減った時に『どうすれば学校が活性化するか』』ということを考える中での一つの方法としての統合であって、人数が減ったから統合するといった単純な議論はしない」という話をしている。

【委員】

自由意見でトイレのことを書かれるようでは駄目で、いろいろな公共施設を作っているが、市民は海南 nobinos も学校も一緒だと思っている。「あのような施設を作る前に学校を直してほしい」というのが子供を持つ親の純粋な意見である。学校施設の問題を解決しないまま統合の話をして誰も了承しない。また、統合後の学校施設の再利用の問題もある。和歌山市では加太小学校などで他地区から子供を集めているという話を聞いたし、有田川町では私立の誘致を進めているという話を聞いた。海南市では「空いている学校を貸してほしい」といった話はないのか。

【事務局】

学校の跡地利用は市で検討している。例えば、旧仁義小学校は校舎を取り壊した上で地元が活用している。新しい学校の誘致については教育委員会でも

特に検討しておらず、まず現在の学校の教育環境や教育内容を充実させることを中心に考えている。

【委員】

旧仁義小学校の話が出たが、統合となった場合には、学校の跡地を何年も放置するのではなく、すぐに活用方法を考えていただきたい。

【事務局】

放置しているわけではない。旧仁義小学校のグラウンドにはスクールバスの車庫を設置しており、体育館は学校開放として活用し、ランチルームは公民館活動に活用している。活用方法については地区との協議の中で決めている。

【委員】

先ほど「特色のある学校」という話が出たが、例えば下津第一中学校と下津第二中学校が統合となった場合、スポーツが盛んなため下津第二中学校に通う生徒がいるという話もあったので、スポーツ面で特色のある学校として、市だけでなく地域や保護者の方も含めてアピールできるような形にすればよいと思う。また、海南 nobinos は決して無駄ではなかったと思う。数十億円というお金を投じているが、子供たちも利用できてありがたいという側面もあるので、否定ばかりではなく良い点もあると認めることも大事である。

【委員】

海南 nobinos を否定するわけではなく、私も子供も利用している。私は、保護者を代表する立場として、周りの保護者から聞いた話を伝えなければいけないと思って言っているだけである。

【委員】

私の家の前は、廃校になった旧加茂第二小学校である。旧加茂第二小学校は、しばらくの間、放置に近い状態だったが、最近は公民館活動の拠点としてほぼ毎日活用しており、地域住民にとっては、災害時の避難場所としても良い場所と思っている。統合すれば施設が残ってくるが、その後の活用については、おそらく良い活用方法が今後も出てくるのではないかと考える。

【委員】

アンケート結果を見ると、様々な意見が出ており、不満点については市で対応を検討していただきたい。また、本日、私たちが集まっている目的である適正化に向けた人数や規模の議論を今後進めていかなければならないと思うので、次回はその点にフォーカスして活発な意見交換をできればよいと思う。

【委員】

統廃合という形になったとしても、そこで勉強するのは子供たちなので、大人の事情もあると思うが、まずは「子供がそこでどれだけ健やかに学習や部活動ができるか」という点について、議論していきたいと思う。